

**中高** 中学校・高校では、昨秋から今冬にかけて、各クラブ団体が全国大会や発表会に挑み、大きな成果をあげています。(2面にも記事掲載)

## 中高:2つの全国大会で 「第1位」・「銀賞」受賞

カラーガード部

2025年1月11日・12日、武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された「Dance Drill Winter Cup 2025」(第16回全国高等学校ダンスドリル冬季大会、第14回全国中学校ダンスドリル冬季大会)で、中高カラーガード部がそれぞれ「TALL FLAG部門」で「第1位」を受賞しました。尚、本大会は、昨年開催された「令和6年度ダンスドリル秋季競技大会」の結果により出場権を獲得したチームが参加するもので、中高カラーガード部は、秋季競技大会においてもそれぞれ同部門で「第1位」を獲得しています。

さらに、2025年1月26日、群馬県高崎市の高崎アリーナで開催された「第8回カラーガード・マーチングパーカッション全国大会」に、中学2年生から高校2年生までの計19名で編成したチームが出場し、「銀賞」を受賞しました。今年度取り組んできたショーの集大成として出場した本大会は、高校2年生にとって最後の公式戦となりました。

短期間に2つの全国大会に異なる演目で出場することは、体力的・技術的そして精神的に厳しいものがありましたが、友人や保護者の方々からの応援、他の部活団体から活動場所への配慮をいただくなどの温かな後押しもあり、本番で力を出し切ることができました。互いを信じて切磋琢磨した選手たちは、本番後に見せた笑顔や涙を今後の学校生活の糧にしながら、また来年度に向けて頑張っていきます。

▶「銀賞」を受賞した  
中高生メンバー



◀中学  
カラーガード部  
メンバー

## 中学:ダンスドリル秋季競技大会・全国大会 「SONG/POM部門Large編成」で「第2位」 高校:全国大会出場

チアダンス部

2024年11月18日・19日、所沢市民体育館にて「令和6年度ダンスドリル秋季競技大会」の関東大会が開催され、中高チアダンス部が出場しました。本大会では、中学生が「SONG/POM部門Large編成」、高校生Mediumチームが「SONG/POM部門Medium編成」で出場し、共に全国大会となる「Dance Drill Winter Cup 2025」への出場権を獲得、中学生チームは「第2位」入賞も果たしました。

そして、2025年1月11日、武蔵野の森総合スポーツプラザにて「Dance Drill Winter Cup 2025」(第16回全国高等学校ダンスドリル冬季大会、第14回全国中学校ダンスドリル冬季大会)が開催され、中学生は「SONG/POM部門Large編成」、高校生Mediumチームが「SONG/POM部門Medium編成」で出場。中学生は、秋季競技大会と同様に「第2位」に入賞を果たしました。

中学生は、Large編成で人数が多い中、アームや足の向きを揃えるなどの技術面が課題でしたが、先輩を中心に声を掛け合い、意識を高め、個々でも一生懸命練習に励み、全国大会で生かすことができました。高校生は、全国大会独特の雰囲気もあり、チーム全体に緊張感がありましたが、ウォーミングアップ時に気持ちを高め、自分たちの演技を披露することができました。

次は、「USA Nationals 2025」の全国大会に出場し、入賞することを目標に、日々練習に励んでいます。

◀高校チアダンス部  
Mediumチーム  
メンバー



▲中学チアダンス部メンバー

## 大学 日本環境マネジメント株式会社との産学包括連携協定を締結

2025年1月27日、本学と日本環境マネジメント株式会社(本社:さいたま市)における産学包括連携に関する協定締結式がふじみ野キャンパスで実施されました。同社は、埼玉県を中心とした官公庁や民間施設の管理運営、清掃業務等を柱に成長を遂げている企業です。

本協定は、大学の研究成果を社会へ広く還元し、企業との情報交換を通じて地域社会の発展と人材育成に貢献することを目的としています。

今後は、両者が持つ知見やリソースを活かし、教育・研究・実践の場を提供することで、より実践的な学びの機会を創出するとともに、相互の発展を促進していきます。



日本環境マネジメント株式会社常務取締役(左)と福井学長(右)

### GREEN SPIRITS



#### 不易と流行

人間学部長・教授  
小栗 俊之

今年度より人間学部長を仰せつかっております小栗俊之でございます。何卒、宜しくお願いたします。これからの人間学部はどうあるべきか。柱となる考え方、それが「不易と流行」であると思います。不易とは時を超えて変わらないもの。「自然を大切にすること」「人を思いやること」「人を愛すること」などです。流行とは、時

の流れと共に姿や形を変えていくべきものです。

文京学院大学の建学の精神は「自立と共生」、校訓として「誠実・勤勉・仁愛」があります。この理念はいつの時代も変わることがありません。AI(人工知能)が叫ばれています。AIはこれからの私たちの時代に切っても切り離せない存在です。急速に変化する社会を感じます。この波に押しつぶされないよう、その波に上手く乗っていく必要もあります。そんな時であるからこそ「人間とは何か」という学問が重要視されるべきではないでしょうか。見失ってはいけない問いであると思います。

研究室の机上の小皿の中に、ふるさとの海岸で拾ってきた貝殻があります。自然のパワーをもらえる気がします。アコヤガイは、真珠を作り出す真珠母貝です。真珠は宝石です。二枚貝の中に砂などの異物が入ってきます。

その異物を真珠層で包み込みます。何年も何年も、何回も何回も繰り返し……。かつての痛みは姿を変え、美しい真珠が出来上がります。異物や痛みを社会の急激な変化や新しい環境と捉えると、やって来る流行という環境の変化に対して、怯まず・ぶれず・乗り越えようと挑むことが建学の精神に通じる不易ではないでしょうか。流行に対して最初は違和感を伴います。それを美しく光り輝く真珠に変えていく。違和感は何かを生み出す「きっかけ」かもしれません。これからの歩みに示唆を与えてくれているように思うのです。

大切なものを見失わず、人間学部は変わっていかねければなりません。そして、これからも社会に必要な人材を輩出していくよう尽力していく所存です。

ご教導の程、何卒よろしくお願いたします。

### 高校 「タイ科学交流プログラム」開催

本校は2012年にSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受けたことを契機に、タイ王国「プリンセス・チュラポーン科学高校・ベッチャプリー校」(以下PCSHS-P校)と教育提携を結び、毎年互いの学校で科学交流を行っています。

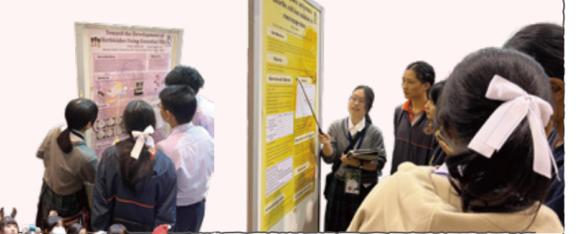
2024年12月16日～25日の10日間、本校理数キャリアコース在籍の2年生10名がタイを訪問し、交流を行いました。

科学交流として、本校生徒たちは英語で「生物」や「化学」「数学」などの授業を受け、新しい観点から科学に関する知見を深めることができました。また、現地のマヒドン(国立)大学では、音のしくみや、タイの各地域で採取された塩の濃度検査等の実験を通して、科学を実践的に学ぶことができました。

これらの他にも、歌を用いたタイ語の授業や、合成樹脂コースターづくり、ビーチの生物を教材としたアクティビティなど、さまざまな理数関係の体験学習を行いました。

そして今回のプログラムの最大の目的であるPCSHS-P校で行う、日頃の研究についての研究発表とポスター発表では、「メタリウム酸濃度の違いによるアスコルビン酸保護力」や「精油によるアラノ科植物への発芽阻害効果」などをテーマに、本校生徒たちは、タイの大学教授など教育機関の方々の前で、堂々と発表を行う姿が見られました。本プログラムで、生徒たちは多くのことを経験し、「英語」と「科学」という2つの共通言語で交流し、学び、楽しむことができました。

両校の交流は定期的にも実施しているもので、次回は、6月に本校にPCSHS-P校より生徒や先生方をお迎えし、科学交流を行う予定です。(右の写真は、今年度の交流の様子を撮影したものです)



### 中学 「クリスマスコンサート」開催

2024年12月19日、駒込キャンパスジャジーホールにて、今年度で4回目となる「中学クリスマスコンサート2024」が行われました。長く続いてきた合唱コンクールから、感染症対策のために打楽器・弦楽器を使った器楽アンサンブルを取り入れたのがきっかけで生まれたのが本コンサートです。

昨年度から合唱も復活し、ダンスや衣装などの演出にも生徒のこだわりと工夫が見られました。

今年度は主役となる中学3年生が「すべてのお客様に楽しんでもらうこと」を第一に選曲から考えたバワフルな演奏・演出で、笑顔溢れる会になりました。その生徒の頑張りに応援を送ろうと、サプライズで先生バンドの演奏が始まると、この日一番の大歓声が沸き起こりました。事務職員による、様々な楽器の形をした手作りイルミネーションのプレゼントもあり、光が輝く中で、音楽に包まれる穏やかなひとときとなりました。

(右の写真は、今年度のコンサートの様子を撮影したものです)

### 高校 「第7回中高生情報学研究コンテスト」(関東ブロック)で高校生2名が「入選」

2024年12月22日、「第7回中高生情報学研究コンテスト」の関東ブロック大会が開催され、高校2年の矢田小晴さん(2萩)と伊藤公恵さん(2梅)の研究「ストレスを減らすチャットボット作成」(指導:瀧澤裕太教諭)が、「入選」しました。

本コンテストは、一般社団法人情報処理学会 情報処理教育委員会および同学会 初等中等教育委員会が主催となり、中高生が全国5ブロックに分かれて情報学研究を発表する大会です。今回は全国140チームが参加、うち全国大会に出場できなかった中で優秀な研究として29チームが「入選」となりました。

矢田さんと伊藤さんの研究は、唾液アミラーゼや脳波を用いたストレス検証、チャットボット開発という斬新なアプローチと、その科学的かつ独創的な取り組みが評価され、本校理数キャリアコースで今年度初のコンテスト「入選」となりました。



伊藤さん(左)と矢田さん(右)

### 中高 吹奏楽部 2チームが アンサンブルコンテストで「銀賞」受賞

2024年12月25日・27日、小平市民文化会館(ルネこだいら)で「第48回東京都高等学校アンサンブルコンテスト」が開催されました。吹奏楽部は「サクソ三重奏」「打楽器三重奏」の2チームが参加し、木管部門、打楽器部門でそれぞれ「銀賞」を受賞しました。

本コンテストは3～8名の小編成でチームを組み、個人技術と表現力、協調性を競うコンテストです。今年は両チームとも3名という最小人数で挑み、より個人の技量が求められる中、チームワークで音楽を磨くことができました。

尚、吹奏楽部では下記の定期演奏会を行います。ぜひ皆様ご来場ください。

#### 吹奏楽部「定期演奏会」のお知らせ

日時: 2025年3月16日(日)  
13:30開場 14:00開演 16:00終演予定  
(特別出演)  
演劇部 & 【口笛奏者】柴田晶子氏

場所: 文京学院大学本郷キャンパス「仁愛ホール」

※入場無料 ※どなたでもご来場いただけます。未就学児も可。



(前列)サクソ三重奏メンバー、(後列)打楽器三重奏メンバー

### 中高 美術部 「東京都私立中学高等学校 生徒写真・美術展」で 中学生6名の作品が「入選」

「第57回東京都私立中学高等学校 生徒写真・美術展」において、中高美術部生徒の佐々木海柚さん(高3楓)、鈴木陽依さん(高2樟)、野崎瑚雪さん(高2樟)、清水恵梨さん(中3菊)、寺西遥香さん(中3菊)、山田優芽さん(中1桃)、6名の作品が「入選」し、2024年11月19日～24日までの期間、東京都美術館に展示されました。普段はデジタルでイラストを作画する生徒が多いのですが、昨年から夏合宿が復活し、合宿で描いた作品を中心に出品しています。これからも幅広く、新しいチャレンジを続けていきます。



(前列)左から 寺西さん、山田さん、(後列) 佐々木さん、鈴木さん、野崎さん、清水さん

## 大学 能登半島地震・豪雨災害 ボランティア活動報告 人間学部生6名が石川県珠洲市を訪問

能登半島地震・豪雨災害で被災された皆さまならびにご家族・関係者さまに、心よりお見舞い申し上げます。本活動は、本学学長裁量経費「在校生・卒業生と創造する被災地での学びを福祉につながる教育力(共育力)強化改革:代表 人間学部人間福祉学科 中島修学科長・教授」の一環として実施されました。

2024年12月25日～28日、人間学部人間福祉学科の学生6名及び教員1名が能登半島地震・豪雨災害被災地の石川県珠洲市を訪問しました。

訪問した学生・教員は、珠洲市役所職員や被災地外から支援に入っている公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会スタッフ等の話を聞くとともに、仮設住宅への家電運搬や棚の組み立てボランティア、サロン活動等に参加しました。

今回の活動に参加した人間学部人間福祉学科3年の稲子大翔さん、大和久真弥さん、加藤未来さん、剣持沙恵さん、新田誠二さん、山本愛斗さんは、「なにか自分たちにもできることはないか」との思いから、本活動に参加申込みし、活動の実施に至りました。

参加学生からのコメントを以下に掲載します。

#### \*\*\*学生コメント\*\*\*

稲子大翔(人間学部人間福祉学科3年)

今回の活動では、仮設住宅で暮らす方々を訪問させていただき、住民の方々と実際に知り、日常では経験することのできない貴重な時間を過ごし、様々なことを学びました。特に、仮設住宅に暮らす高齢の方々は、家具や電化製品の開封・組み立てが難しく、仮設住宅入居後もアウトリーチ型の支援が必要になると感じました。

新田誠二(人間学部人間福祉学科3年)

仮設住宅団地でのサロン活動では、現地の方とカレーを食べながら様々な話をし、レクリエーション(ジェンガやポッチャ)を実施しました。その中で、被災生活が一変したことにより、支援が必要ではなかった人も、支援が必要な状態になっていたこと、新しい環境で生活することの大変さと、今後復興住宅等へのさらなる転居があることを学びました。

そして、支援者の方々の話を聞き、被災者でありながら支援者であり続けることの大変さを知りました。



▼参加した学生と人間学部の平野裕司助手(右)



仮設住宅団地での食事準備を行う学生たち

家具の組み立てをサポートする学生

## 大学 「アートフェスタふじみ野2024」開催

2025年1月18日・19日の2日間、音楽とアートの祭典「アートフェスタふじみ野2024」が、「アートの星がここをつなぐ」をテーマに、ふじみ野市のふじみ野ステラ・ウエストで行われました。

本イベントは、アートフェスタふじみ野2024実行委員会が主催、ふじみ野市が共催となっており、本学も協力・協賛をしています。

クラシックコンサート、歌、演奏、ダンス、パントマイム等のライブパフォーマンス、アートワークショップ、展示会など、約40企画が実施されました。

本学は2017年から実行委員会に参加し、教員や学生の協力でこの事業の発展に貢献してきました。今年も恒例となり好評をいただいている「小林剛史(人間学部心理学科教授) & 渡辺行野(人間学部児童発達学科准教授)によるフルートとピアノ/Duo」のほか、10名の学生が運営スタッフとして参加しました。親子連れなど、延べ7,000人を超える来場者が訪れ、鑑賞や体験を楽しむ盛大な催しとなりました。



▶運営スタッフとして活動する学生

▶演奏を披露する渡辺准教授(左)と小林教授(右)

### 特集 注目のトピックス

Topic 01 練馬区でのごみ拾い・福祉体験イベントに人間学部生5名(指導教員:鳥羽美香教授)がボランティア参加  
12月1日



ふじみ野市×ソフトバンク社「高齢者向けスマホ教室」に人間学部生(指導教員:梶原隆之教授)が運営・サポート協力  
11月2日・12月7日



### BOOK INTRODUCTION 書籍紹介

#### 『ソーシャルワーク実習の新たな展開 ～連携と協働でつくるプログラムとマネジメント体制～』

人間学部人間福祉学科の鳥羽美香教授、篠原純史准教授、平野裕司助手の共同編著による書籍が刊行されました。(以下、学文社ホームページより引用) 実習施設・機関と文京学院大学(人間学部人間福祉学科)が連携・協働して取り組んだ社会福祉士養成課程の新カリキュラムの施行に向けた知見を反映させ、ソーシャルワーク専門職と実習の位置づけ、実習マネジメント、実習プログラミングについて解説する。多くの養成校、実習施設・機関、そしてソーシャルワーク実習を行う学生の方々に

とって、有益な資料として活用可能。今回、新カリキュラムの目指す社会福祉士養成のあり方に関して検討することを軸として、その「実践力」を育成する中核である実習プログラムを中心に検討し、社会福祉士養成に関わる現場と学生、教員体制という3つのシステムのマネジメント役割や関係、方向性に関して考察する。社会福祉士養成の目指すところに関する提言も行う。

(執筆)※敬称略 鳥羽美香、篠原純史、平野裕司、金子恵美、鈴木剛士、高橋明美、田嶋英行、中島修 学文社(2025年1月)/2,200円(税込)

Topic 03 AnimeJapan学生実行委員会・椿班による「ウクライナ応援プロジェクト」 「椿ランタン ライトアップ撮影会」を開催  
1月9日・24日 @本郷キャンパス



Instagram

ORIGINAL EVENT

大学では、今年も就職活動やゼミ研究発表に関する学内イベントが実施されました。

### 大学 「キャリアてっぺんフォーラム」開催

本学の卒業生や就活を終え内定を得た4年生が、後輩たちに働く意味や内定獲得に向けた実体験を伝える「キャリアてっぺんフォーラム」が各キャンパスで開催され、就活体験談の講演やパネルディスカッションなどが行われました。

#### ふじみ野キャンパス(11月20日)



キャリアてっぺんフォーラム学生実行委員長 北野咲良(人間学部心理学科3年) 「直接先輩方の話を伺い、就職後に様々なキャリアを築いている姿が印象に残りました。就活の軸を見極めることは大変ですが、就職活動をしながら柔軟に変えていくことも大切だと気付きました。普段授業で取り組んでいることが仕事に活かせることも知り、毎日を大切に過ごしていきたいと思ひます。このフォーラムが少しでも不安や焦りの解消につながれば幸いです」

#### 〈発表者〉

- 東日本三菱自動車販売株式会社 田口裕花 氏(2024年3月人間学部児童発達学科卒業) 「社会人になった私の今」
- 株式会社くすりの福太郎 笠原さやか 氏(2020年3月人間学部人間福祉学科卒業) 「採用担当の立場から後輩へのアドバイス」
- 株式会社セレブリックス 檜和田航希 氏(2024年3月人間学部心理学科卒業) 「自分の考えを持ち、責任をもって行動する!!」
- 日綜産業株式会社 三野輪桜楽(人間学部心理学科) 「私の就活の軸」

#### 本郷キャンパス(12月4日)



キャリアてっぺんフォーラム学生実行委員長 村上魁紘(経営学部2年) 「“学び得た経験と活力を次なる挑戦者へ”というスローガンのもと、フォーラムを企画しました。お忙しい中、5名の先輩方にお越しいただき、お話を聞くことができました。“自分の就職についての考えをまとめていくこと”そして“就職するという自覚を持つこと”の大切さを、先輩方から学ばせていただきました。今回教えていただいた多くの情報を、今後の就活に活かしていけるよう、明日からコツコツと準備していきましょう」

#### 〈発表者〉

- ミイダス株式会社 西尾香実(人間学部コミュニケーション社会学科) 「納得内定に向けて」
- ANAエアポートサービス株式会社 渡邊櫻香(外国語学部) 「自分らしさを大切に」
- 株式会社あらた 小田島丈(外国語学部) 「後悔のない就活を目指して」
- 高見株式会社 出納愛夏(経営学部) 「就活の楽しみ方」
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 高田智詞(経営学部) 「悔いのない就活を送るため」

### 大学 「ゼミナールオープン大会」開催

2024年12月7日、「ゼミナールオープン大会2024」が開催されました。同大会は、経営学部生で構成する「ゼミナール協議会」が主催しており、今回は経営学部の8つのゼミから17チーム、82名の学生が参加しました。

社会課題を明確にし、解決策を提案する「ビジネスプレゼン部門」には、7チームが2つのブロック(A,B)に分かれて参加。また、ゼミで研究しているテーマでの実証研究や事例分析を発表する「研究部門」には、10チームが2ブロック(C,D)に分かれて参加しました。参加学生は日頃の研究成果を存分に発表し、次のチームが優秀賞を受賞しました。

優秀賞

ブロック賞

\*\*\*【ビジネスプレゼン部門】\*\*\*

Aブロック: 栗屋ゼミ3年 ひとみちーむ「廃棄うどんの活用方法」

Bブロック: 川越ゼミ3年 江戸小紋「生成アルゴリズムによる江戸小紋の自動配置」

\*\*\*【研究部門】\*\*\*

Cブロック: 押切ゼミ3年 チームK

「カフェの廃業率問題を改善するには~O's. Dining kitchenを例として~」

Dブロック: 中島・吉田ゼミ3・4年 チームA

「KAM(Key Audit Matters)開示は、MD&AおよびKAMの可読性を変化させたのか? IFRS適用日本企業による実証分析」

ビジネスプレゼン部門賞

1位: 栗屋ゼミ3年 ひとみちーむ「廃棄うどんの活用方法」

2位: 川越ゼミ3年 江戸小紋「生成アルゴリズムによる江戸小紋の自動配置」

3位: 押切ゼミ3年 びたみん「適切な距離でスマホと向き合う社会をつくるためには?」

研究部門賞

1位: 中島・吉田ゼミ3・4年 チームA

「KAM(Key Audit Matters)開示は、MD&AおよびKAMの可読性を変化させたのか? IFRS適用日本企業による実証分析」

2位: 高橋ゼミ3年 ピロカン「業種別会計不正の動向分析」

3位: 川越ゼミ3年 KOMON「江戸小紋を活用したゲーム企画」

ゼミナール協議会会長の坂井優星さん(3年)から、大会を振り返って次のコメントが寄せられました。

「大会に参加された皆さん、大変お疲れ様でした。今年度から参加チームは減ったため、寂しく感じておりました。しかし、その寂しさを他所に、参加した皆さんの研究のクオリティの高さから、私たちが非常にやりがいを感じておりました。

皆さんが目的を定めて取り組んだ研究は、多くの学びがあったと思います。そして、そこから得られた学びは、今後の人生に大きく活かせるはずです。その成長までのワンフレーズとして、この“オープン大会”を心に刻んでいただけると嬉しく思います」



坂井さん

### 大学 戦争の記憶を辿るまちあるきイベントを開催 人間学部生6名が企画・立案

2024年11月23日、本学とふじみ野市との共催で、「東京第一陸軍造兵廠川越製造所(通称:火工廠)」の跡地をめぐり、戦争の記憶を辿るまちあるき企画「記憶をつなぐまちあるき~あの日 あの日に出会い直す~」が開催されました。

ふじみ野市内には、昭和12年~昭和20年の間、「火工廠」という戦争で使用される爆弾や銃弾などをつくる工場がありました。本学まちづくり研究センターふじみ野に所属する人間学部生が「郊外論プロジェクト」において、その工場や地域の歴史を、戦争非体験者である若い世代の視点や自分たちの言葉・表現で、戦争の遺跡・記憶を後世につなげていくことを考え、本イベントを企画・実施しました。

「火工廠」語り継ぐ会の熊谷洋興氏にご協力いただきながら、当日は、学生たちがガイドをつとめました。火工廠跡地である、福岡中央公園周辺などを歩きながら、昭和初期の上福岡について学び、上福岡歴史民俗資料館も見学しました。

当日は、スタッフや市職員含め20名の参加があり、戦争の痕跡を辿りながら、まちの成り立ち、平和や歴史について学が意義などを話し合いました。



市内の名所看板を見ながら説明をうける参加者



イベントの説明をする学生ガイド

\*\*\*学生コメント\*\*\*

小早川武史

(人間学部コミュニケーション社会学科3年)

終戦から80年が経過し、戦争を知る世代が高齢化していく中で、若い世代に当時の記憶をつなぐことは重要度が増していると考えます。今年火工廠の歴史を映像化し、伝承に向けた取り組みを引き続き実施していきます。



当日の散策MAP

ひたむき・まへむき・おもむき tomoちゃん

第95回

画: 美術部(中学) よつば

